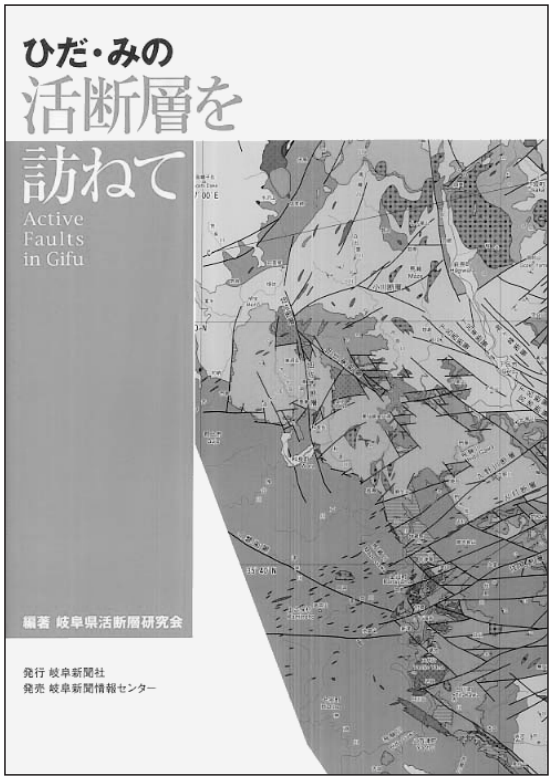
新刊紹介

「ひだ・みの活断層を訪ねて」

岐阜県活断層研究会　編著
岐阜新聞社発行　A4版201頁
岐阜新聞情報センター発売
岐阜市今沢町12　Tel: 058-264-1620
2008年2月11日発行　定価1,800円（税別）
ISBN978-87797-126-7



最近では大きな地震が起きる度に，近くに「活断層」があるかどうかが，新聞・テレビ等で話題になる．しかし直下型の地震がいつ，どこで起きるかの予知はむずかしい．日本列島はどこで地震が起きてもおかしくないのだ．そこで重要なのは，列島の隅々まで過去の地震の化石，つまり活断層を調べて，その情報を多くの人たちが共有しておくことだろう．

飛騨・美濃地方，つまり岐阜県は日本列島の中で最も活断層が密集したところの一つである．ここには1858年の飛越地震（跡津川断層），1891年の濃尾地震（根尾谷断層）など，明らかに活断層を起源とする地震が知られている．

このたび，岐阜県下の小中高校の先生方が中心となって，県内のすべての活断層に関する一般向けの解説書を発行した．その元になったのは，3年間にわたって岐阜新聞の夕刊に連載された「ひだ・みの活断層を訪ねて」の記事である．これを一冊の本に仕上げた執筆者（46名）たちの努力をたたえると共に，活断層研究の裾野がここまで大きく広がったことに感銘を覚える．

本書は第1章「活断層を知ろう」，第2章「活断層のすがた」，資料編の3つからなる．

本書の生命は第2章の活断層各論にあるといえよう．ここでは，県内の活断層が大きく西部地域（根尾谷断層など），東部地域（阿寺断層など），北西部地域（御母衣断層など），北部地域（跡津川断層など）の4地区に分けられ，合計161項目に及ぶ各地区の活断層が，写真・地図・解説文のセット（各項目1頁）で紹介されている．

上記の各項目について，変位地形はもちろんのこと，トレンチ掘削，断層露頭，崩壊堆積物，湧水，温泉，断層ガス，地電流などの観察結果が，平易な文章で述べられている．昔の街道が大河沿いではなく，断層鞍部を連ねた直線状の山道を使ったことはよく知られているが，この話題も多い．地震に関する古くからの記録・伝承が詳しく紹介されていることも本書の特徴であり，地域に根付き，地方史に親しみ，また住民との対話に心がけた執筆者たちの努力が伝わって来る．

本書では，地震−活断層を単に自然災害（マイナス面）として捉えるのみでなく，平野・盆地・斜面・河川・道路などを通じて活断層が生活・産業・観光などに生かされてきたというプラスの面も指摘されている．後者は長期にわたる運動の累積結果であり，前者は突発的に起きる災害であるから，視点はやや異なるが，そこに共通の土台を見出そうとしている．

本書の解説文を通読するとかなりの重複が認められる（共役断層の説明など）が，それぞれの頁の独立性を重んじる立場からすれば当然のことであろう．一つ残念なことに，各頁の地図における真北表示の記号が左に偏したものと左右対称のものとの2種類が混在している．矢印の先は左右対称であることが望ましい．

全頁カラーで，ずっしりと読み応えのある本書がこの値段（安い！）で入手できる．多くの人に読まれて欲しい．　（元地質調査所員　山田直利）